



津波の特性と迅速な行動

津波は、はるか洋上ではジェット機並みの速さで進み、陸に上がってくるときの速度は、**1秒間に約10m程度**(人が全速力で走る速さ)であるといわれており、津波が目前に迫ってくると逃げるのが困難です。津波警報が発表されたら即座に避難を開始しましょう。津波警報の内容を確かめている間に第1波がやってくるかもしれません。

また、津波警報が出されたかどうか確認できない環境にいる場合も多いので、海岸周辺にいて大きな地震動を感じた場合は津波警報の有無にかかわらず、直ちに海岸地域から離れ浸水想定区域の外へ避難してください。

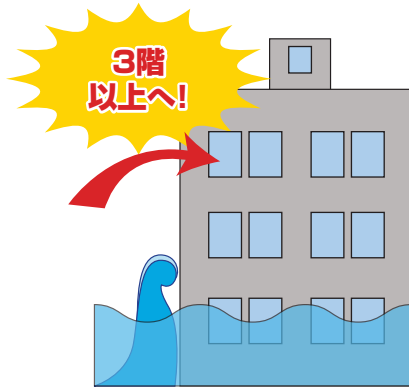
地震が起きたら浸水想定区域の外へ避難!

東日本大震災では、地震発生後すぐに避難行動をとらなかつたため失われた命が多くありました。しかし一方で、津波被害の教訓を生かし地震発生後速やかに山や高台に避難した人々の多くは助かっています。

津波被害が予測される地域では、地震発生と同時にまず海岸から少しでも遠い高台へ避難することが原則です。

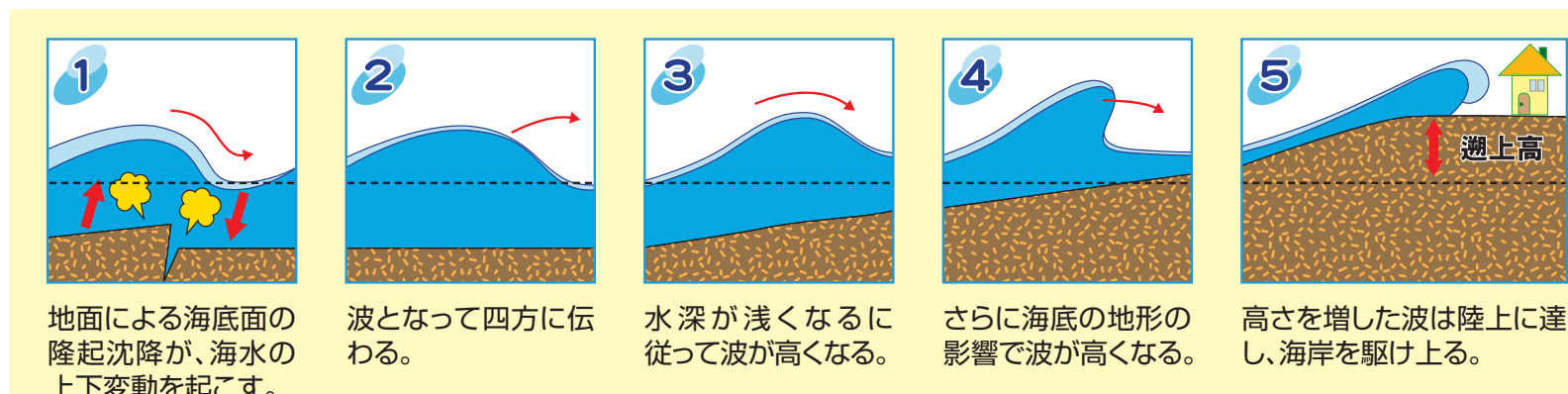
高台まで避難する時間がない場合

津波の到達が差し迫り、高台や指定された緊急避難所まで避難する時間がない場合は、近くの頑丈な建物(鉄筋コンクリート造)の少なくとも3階以上に避難しましょう。



津波はどのように襲ってくるのか

海底で起きた地震が原因で、海水が陸地に押し寄せる現象が津波です。



地震・津波に備えて 水深が浅くなるほど津波が高くなる

<h4>津波の破壊力</h4> <p>津波の高さが1メートル程度でも家や車をさらっていく桁違いの破壊力を持っています。</p>	<h4>繰り返す来襲</h4> <p>津波は、第一波のみとは限りません。第二波、第三波と繰り返し襲ってくる場合があります。津波注意報、津波警報が解除されるまで注意が必要です。</p>	<h4>津波の高さ</h4> <p>津波の高さは、海岸や湾の地形によって変化し、予想された数倍に達する場合があります。</p>
---	---	---

用語の解説

- 遡上 ... 津波が海岸を駆け上ることを「遡上(そじょう)」といい、その高さは時には数10mに達することもあります。この高さを「遡上高」といいます。
- 津波の高さ ... 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、海岸付近の海面がどのくらい高くなっているかを表したものです。



津波警報が発表されたら高台などへ避難しよう!



津波警報・注意報の種類及び発表基準

日本沿岸で起こる大地震による津波予報は、地震発生後約3分を目標に発表されます。注意報、警報は以下の通りです。

種類	発表基準	想定される被害と取るべき行動
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。

出典:気象庁(津波警報・注意報について)

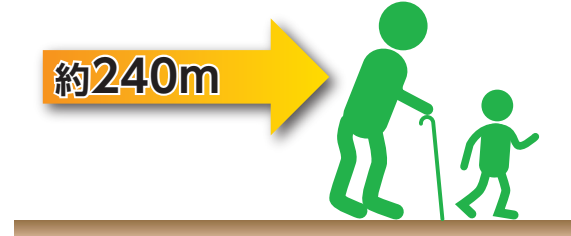
5分間で避難可能な距離

津波は地震発生から最短約5分で到達する恐れがあります。どこまで避難できるか確認しましょう。

● 成人男性の歩行速度



● お年寄りや幼児



● 水中(膝下)で歩行



● 水中(腰下)で歩行



浸水深と危険度

下の図は、浸水した時の深さと危険度を表した図です。マップで自分の家を探して、どの程度浸水するかを確認しましょう。

※国土交通省等監修の「津波・高潮ハザードマップマニュアル」、「浸水想定区域図作成マニュアル」、消防庁等発行の「津波災害予測マニュアル」を参考に設定。

